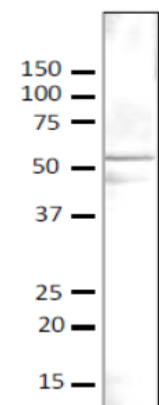


抗 Gcn5 (*S. cerevisiae*) 抗体, ウサギ抗血清

商品コード	62-003
容量	100 µl
保存	-20 °C 凍結融解を避ける
濃度	N/A
バッファー	0.1%アジ化ナトリウム添加
純度	ウサギ抗血清
抗原	大腸菌で発現させた His-Tag 付組換え体酵母 GCN5 タンパク質(1-300 アミノ酸)
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	出芽酵母 Gcn5 タンパク質
アプリケーション	ウェスタンブロット法 (1/500~1/1,000)
背景	Gcn5p を触媒サブユニットとするヒストンアセチラーゼ複合体であり、Taf1p を触媒サブユニットとする基本転写因子 TFIID と重複した機能を持つ。ただし SAGA (<u>S</u>pt-<u>A</u>da-<u>G</u>cn5 histone acetyltransferase complex)と TFIID には役割分担があり、それぞれハウスキーピング型遺伝子群、ストレス応答性遺伝子群の転写において重要な役割を果たすといわれている。また SAGA は、Ada タンパク質群 (5 種類)、TBP 関連タンパク質群 (4 種類)、TAF タンパク質群 (TFIID にも共通に含まれる 5 種類)、その他のタンパク質群 (>6 種類) から構成される巨大なタンパク質複合体である。その分子機能としては、ヒストンの化学修飾、直接的な相互作用を介した転写調節因子の DNA 上へのリクルート、TBP を介した転写開始反応制御などを挙げることができる。ヒストンアセチラーゼ活性を示す Gcn5p は上記 Ada タンパク質群の一種であり、出芽酵母の場合、439 個のアミノ酸残基 (aa) から構成される。
Data Link	UniProtKB 5GCN
画像	 図 1. 抗 Gcn5p 抗体を用いたウェスタンブロット法による酵母粗抽出液中の Gcn5p タンパク質の検出 <i>S. cerevisiae</i> BY4741 株の菌体粗抽出液を用いた。 抗 Gcn5 抗体は 1/500 希釈で使用した。二次抗体として HRP 結合したヤギ抗ウサギ IgG 抗体を 1/500 希釈で使用した。 シグナルエンハンサーとして東洋紡の CanGet Signal を使用した。 Gcn5 タンパク質の分子量は 51 kDa である。
文献	1. Grant PA <i>et al.</i> "Yeast Gcn5 functions in two multisubunit complexes to acetylate nucleosomal histones: characterization of an Ada complex and the SAGA (Spt/Ada) complex." <i>Genes Dev.</i> 11: 1640-1650 (1997) PMID: 9224714 2. Syntichaki P <i>et al.</i> "The Gcn5. Ada complex potentiates the histone acetyltransferase activity of Gcn5." <i>J. Biol. Chem.</i> 273: 24414-24419 (1998) PMID: 9733731
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	